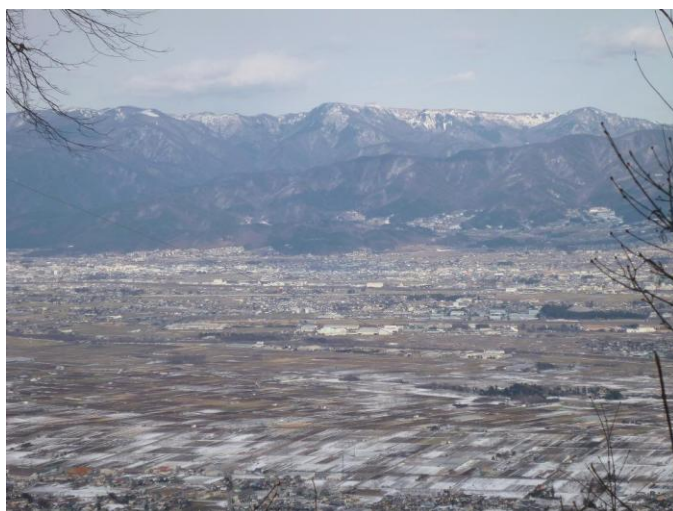


清水高原から、東山を望むと南から高ボッチ・鉢伏山・茶臼山・美しが原(王が頭)・美しが原(王が鼻)・袴越山とつづく。

松本市街で育った私は、東山は間近で見える山であり、生活の場としての里山でもあり、水源でもあった、その東山から反対の西山に住んではや30数年がたつ、いつ見ても私にとって東山は思いでの山であり、見てるとホットする山である。

そんな中で、小学生の低学年のとき両親につれてられていった山、美しが原の王が鼻登山を思いだした。

自宅から見える美しが原は薄き川の上流の谷の間にバランス良く収まった王が鼻であり、ここか



<自宅より美しが原(中央)を望む>

らは美しが原の最高地点である王が頭は全く見えない。

松本バスターミナル(ビルになる前)から、三城牧場行きにのり、山辺から山に入り石切り場でおりました。そこから山登りが始まりました、山登りの記憶は、王が頭にいく道と、王が鼻にいく道とが分かれている分岐点と登っていくと視界が開けたときの記憶が少しあるだけです、これからの記憶が残っています、それは下山して石切り場につきました、これでバスにのって帰るものと思っていたのですが、ここから歩きだしました、家までの調子でした、この為石切り場から自宅までの歩いた記憶が鮮明に残っています。



<実家から見た王が鼻>

2011年9月30日、母と車で石切り場に行ってみました、石切り場の建物は残っていました、登山道も登り口は前より広がって今でも機能しているようでした、下の写真の車のある方に登っていきます。バスの停留所の跡はありましたが、現在はここは通っていない見たいです、昔からの建物の周辺は、桜清水コテージなどとなって開発されていました。

美しが原は、その後あちこちに行きました。山辺からは、三城牧場に、さらに百曲りから登山、山本小屋に宿泊。ビーナスラインからは美しが原美術館に浅間温泉からは、袴越にスキー、ツツジを見にいったり、王が頭下の駐車場もといった具合です。



<石切り場 2011/9/30 >